

■ 帯状疱疹にご注意！

夏の疲れが出てきて、昼夜の温度差が大きくなる 9 月は帯状疱疹(つづらご)の好発期。

昼は暑いので毛穴が開きっぱなし。朝方気温の低下とともに体温も下がります。そうすると免疫力も低下します。背骨の神経の根っ子に潜んでいた水ぼうそうのウィルスが再び活動を始め、神経を伝わって皮膚に到達し、帯状疱疹として発症します。赤い斑点が現れる数日～1 週間ほど前から、皮膚の違和感やピリピリ感などの神経痛を伴うことがあります。その後、強い痛みを伴い、体の片側の神経に沿って帯状にやや盛り上がった赤い斑点が現れます。続いてその上に水ぶくれが現れます。水ぶくれは破れてただれた状態となり、かさぶたへと変わります。ここまで来ると、治った後も、色素沈着や皮膚陥凹が残ります。症状の強かった人や、高齢の人は後遺症として帯状疱疹後神経痛が残ることがあります。ウィルスは 1 日で 10 倍増えます。怪しいと思ったら 1 日も早く皮膚科を受診してください。

平成 20 年 9 月分原稿

はらクリニック 原 徹